



総合学科 家政科学系列 シルクガールズプロジェクト

振袖ファッションショーに出演

振り袖ファッションショーや 黒留袖の着方実演披露 呉服の「小いけ」着方教室発表会



鶴岡市の呉服販売「小いけ」（小池仁史社長）の着方教室発表会が29日、同市の東京第一ホテル鶴岡で開かれた。鶴岡中央高校の女子生徒をモデルにした振り袖ファッションショーや、講師陣による黒留袖の着方実演などが繰り広げられ、会場が大いに盛り上がった。

発表会の締めくくりに参加者全員がステージに集合し、華やかな着物を披露した。女・水口加奈子さんが教授を務める「小いけ着方教室」の発表会で、コロナ禍の間は中断しており4年ぶりの開催。教室の講師や生徒、モデル役の高校生など合わせて50人余りがステージで着物を披露した。

振り袖ファッションショーでは、小池会長が17年続けてきた和装教育活動で縁が深まった鶴岡中央高の生徒9人を今回初めてモデルに採用。教室の講師5人が着付けを担当した。華やかな振り袖姿のモデルがランウエーを歩き、正面でポーズを決めると大きな拍手とともに「かわいい」「きれい」と歓声が上がった。

また、水口さんと講師陣が、最も格式が高いとされる慶事の第一礼装「黒留袖」の着方を10人で一斉に実演。一般的な和装用のひもではなく、3本のゴムを用いて15分までできる着方を一糸乱れぬ動きで披露した。

このほか「着物のある暮らし」の発表では、教室に通う生徒29人がステージに登場。司会役が普段着としての和服やお呼ばれの際の着物など、生活と着物の関わりについてそれぞれのエピソードを紹介した。

同社の小池泰弘会長の長

振袖ファッションショー

